

連谷お助け隊

「あいちモリコロ基金」助成受給決定

公益信託 愛・地球博開催地域社会貢献活動基金助成金
(愛称：あいちモリコロ基金)

1. あいちモリコロ基金の成り立ちと目指すもの

この基金は、愛・地球博(2006.3.25～9.25)の収益金をもとに設置されました。愛・地球博は、NPOやボランティア等多数の市民参加に支えられ、成功を収めました。市民の自発的な取り組みの機運の盛り上がりそのものが愛・地球博の大きな成果とも言えるでしょう。

この成果を受継ぎ一層発展させるため、地元4団体(愛知県・名古屋市・名古屋商工会議所・(社)中部経済連合会)は、市民による社会貢献活動を広く支援する基金を設けることを決めたのです。今後約10年間、市民の自発的な社会貢献活動を支援し、そのかけがえの無い生活や環境を自分たちみんなで良くしていく動きを確かなものとする事で、持続可能な社会の創造を目指します。

2. みんなで受け継ぎ、広げる愛・地球博の理念

助成対象となる活動は、愛・地球博理念を継承発展させるに相応しい活動、言い換えれば、より良い社会づくりを目的とする市民の自発的な参加に基づく取り組みです。

連谷お助け隊(林義明リーダー)23名は、四谷の千枚田を核にした地域の「むらづくり」、「都市交流」にさまざまな活動を実施しており、上記主旨の公募基準に充分満たしていることから、今後に於ける棚田の保全、むらづくり等々の活動資金調達を鑑み、平成20年度助成申請書(初期活動・前期募集)を提出した結果、3月末、「もりころ基金」助成が決定しました。

申請内容概要

活動目的：地区にある先祖が残した偉大な財産「四谷の千枚田」を保全すること。環境整備、耕作支援等を行い、高齢者、後継者不足などによる荒廃化が進みつつある棚田を守り、後生へと伝承する。その他にも地区のさまざまな支援活動を行い、お田植え感謝祭「みんなで灯そう千枚田」を開催するなど、地域の活性化の手助けをする。

活動内容は

環境景観整備・千枚田周辺の障害木の伐採・景観道、地域の環境整備(草刈、植樹等)・企業ボランティア受け入れ準備、手伝い

地域活性化事業・「みんなで灯そう千枚田」の開催

都市農村交流事業・田舎おもしろ体験・田舎の遊び体験・ミニ門松作り

要望物品等

障害木等の除伐のための高所作業車、チェーンソー等機材、刈り払い機等借料、枝打ち用梯子購入、各種機材の燃料購入等

四谷の

千枚田だより



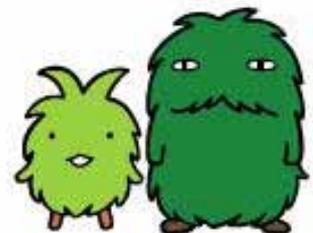
第56号

千枚田 田づら悪いが器量よし
のどかな景色 共に残さん (舜)

五月五日の長篠合戦
のぼりまつりに千枚田のタニシが奉納されます



お世話になってます。



モリコロ

連谷お助け隊会議

三月二十二日、お助け隊はまだまだ、ひよこの分際であり、大目はれて総会を開くほどのキャリアもないと言いつことから、会議と銘打って年度末会合を開きました。議案は本年度の事業報告、会計報告を難なく可決。来年度の事業計画 春の景観整備活動 「みんなで灯そう千枚田」 千枚田周辺の整備活動ほか千枚田交流事業の支援等々が提出されましたが、会員は目の前にある酒や肴に目がくらみ、提出された議案に「やらにゃあ しょうないだらう」と一言、アツという間に全てが決まっています。

酒宴に入り意気軒昂、「村を明るくせるにゃあ、道端の障害木や枝払いをしちまやあいいい・・・」等々、そんなことが出来るのか、と思つような突拍子もない意見が続出、でも可能にしてしまつ(やっっちゃう)のが「連谷お助け隊」だ。

・・・頼もしい奴らだ。(舜)
連谷お助け隊のメンバー(二十三名)
林義明(R)・原田佳治(SR)・小山英樹(事業C)・原田英史(広報C)・松下誠(総括)・石川和幸・今泉勝男・今泉実史・大橋剛・金古浩一・小山孝夫・小山泰徳・佐々木一栄・高橋賀津男・長谷川泰史・原田繁徳・松下尚弘・松下和芳・川合栄昇・小山典生・稲熊政人・内藤成志(顧問)・小山舜(顧問) 会員の年齢二十七〜五十才

横浜ゴム新入社員研修



横浜ゴム新城工場新規採用社員(三六名)は、桜満開の四月四日(金)、四谷の千枚田で労働活動研修が行われた。九時半、オリエンテーションの後、千枚田の保存、歴史などの概要説明を(舜)から受けながら標高差二百メートルの「ふれあい広場」に到着。広場には「たより55号」の呼びかけで参集した連谷お助け隊(原田佳治・原田英史・松下誠、保存会(小山一・小山衛・原田三男・小山しお子

千枚田の田植え (印は実施田)

- 5月10日(土) こども農学校 高橋庄一
- 5月15日(木) 豊橋調理師学校 (舜)
- 5月17日(土) 三河の山里ツーリズム (舜)
- 5月18日(日) 名古屋北LC 養護施設のこども達を招待 (舜)
- 5月20日(火) 三ヶ日中学宿泊体験学習 小山泰弘
- 5月23日(金) 連谷小学校
- 6月22日(日) みんなの奥三河 田吾作

小山こはる)らが、手作りの「鬼饅頭」で迎え、広場周辺の草取り、草刈りなど、お国自慢を交えながら心地よい汗を流した。
昼食後は、お助け隊のリードで陣を組み、新社会人としてそれぞれの希望、抱負、また、お助け隊、保存会員や会社の先輩からの人生訓(挫折、我慢)など、有意義な交流が図られた。
帰路はボツトリ、四阿、水車小屋周辺の景観整備を五十名全員で行いながら千枚田入り口まで下り、「有難うさま、頑張りんよ」と手を振り送るなか、若者達は未来へ向かって元気よく出掛けました。

トピックス

Zコトモ東海は、四谷の千枚田を重要地域と認識、昨年十一月、千枚田をエリアに開局した。また、この八日に連谷地区全域を網羅できるアンテナの増設が行われました。

お花見会

四月六日(日)、連谷地区の有志は連谷交流館において第二回のお花見会を開催、和服姿の嫁つこの点てる「お手前」や「ちらし寿司」を囲んで忙しくなる田植え前のひとときを楽しみ過ごしました。



発行 平成二十年四月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二